

山形県最上町移住定住ガイドブック

MOGAMI LIFE



うつくしい自然と水で
暮らしをはぐくむ。

最上町は、山形県の北東部に位置する、
四方を山々に囲まれたちいさな町。
まるで自然に守られているような安心感があります。
草木も動物も人間も、
おなじ自然の恵みをいただきながら生きてています。
カルデラが形成した町の至る所からは温泉が湧き、
町の人々同士、そして観光客と町の人々をつないできました。
でも特別なことは何もない、
日本の各所にあるであろう、ごく普通の田舎町です。

町を象徴するのは、
うつくしい水があるところにしか生息しないといわれる山鳥。
自然があって、おいしい水があって、新鮮な食材がある。
それ以上に人間に必要なものがあるでしょうか。

ずっと昔から守られてきたものがある。
その心地良さの中で暮らしていくこと。
それぞれの視点で新たに見つけていくこと。
この町で、自分らしい暮らしをつくっていきませんか。



CONTENTS

- 04 最上町マップ
- 05 最上町について
- 07 移住者インタビュー 1
- 09 最上の子育て環境
- 11 移住者インタビュー 2
- 13 最上ではたらく
- 15 最上に住む
- 17 最上で暮らす
- 19 移住支援いろいろ

最上町マップ



最上町へのアクセス

- JR 1：東京駅—古川駅—最上駅（約 3h10min）
- JR 2：東京駅—新庄駅—最上駅（約 4h10min）
- 車 1：東京—(東北自動車道) 古川 IC—最上町（約 5h）
- 車 2：東京—(東北・山形自動車道) 尾花沢 IC—最上町（約 5.5h）

最上町について

東北のほぼ中央に位置する最上町には歴史と文化が息づいています。慈覚大師円仁が錫杖で突いたところから沸いたとされる赤倉温泉に、弁慶が義経の子・亀若丸の産湯として発見されたといわれる瀬見温泉。松尾芭蕉が逗留した町としても有名です。また、人が住んでいるところではほとんどみられない分水嶺が堺田駅前を流れます。かつて馬産地として栄え、今も畜産業が盛ん。その堆肥を活用したアスパラガスの生産が最上町の主要作物となり循環が生まれています。また、バイオマスエネルギーの普及にいち早く取り組み、町内にはバイオマス発電所や木質ペレットの製造所があり、持続可能な社会へ向けた意識が町全体に広がっています。

人口 7,777人（2023年3月16日現在）

面積 330.37 km²

標高 213m

鉄道 JR 陸羽東線（町内7駅）

気温 [8月] 29°/19° [1月] 1°/-5°

[教育施設]

あたごこども園、大堀保育所

向町小学校、大堀小学校

最上中学校

新庄北高校最上校

[医療機関]

町立最上病院

永井医院

小川歯科医院

なりはら歯科医院



移住者インタビュー



松田 唯 さん

フランス料理店トトマビ

山形県山辺町出身

28歳

「自分らしいもがみの暮らしを
手づくりしていきたい」

2016 年の 4 月に地域おこし協力隊として最上町にやってきた唯さん。「東京の大学に進学したのですが、田舎で暮らしたいという思いが強く、就職先を探していたときに最上町に出会いました」。

山形出身ではあるものの、最上町に来たことがなかったそうで「自然溢れる最上町に魅力を感じましたし、道端で挨拶してくれる中学生の雰囲気も良かったです（笑）」と第一印象を教えてくれました。協力隊としては『もがみの暮らし』をテーマに、半農半 X にチャレンジ。独学で自然農法での農業を開始します。自然と向き合いながらもがみの暮らしを摸索していく中で、協力隊仲間だった松田清也さんに出会い、2018 年に結婚。清也さんが最上町にフランス料理店を開く夢を共に追いかけ、修行のため同年に渡仏します。

フランス、東京での修行を終え、

2022 年に清也さんと共に最上町へ帰ってきた唯さん。念願のフランス料理店『トトマビ』を町内に開店させました。現在 2 人でお店を切り盛りし、フランス料理を通じて最上の魅力発信を行っています。「加工品と違って料理はその土地で食べるしかない。そこに意味があると思っています。地域の方も、外から来た方にも、発見があるような料理や時間を提供していきたいですね」。

最上町の環境については、「生まれた場所がかなりの田舎だったので、買い物に困らない最上町は私にとっては都会です（笑）。そして何より自然がある。しかも厳し目な自然なので身が引き締まります。春の雪解けが本当に嬉しい」と、大変さもプラスに変えていくたくましさを感じました。「この春、松田家の畑を受け継ぎ、農業も再開する予定で、ますますもがみの暮らしが楽しくなりそうです」

最上町の子育て

どこもかしこも自然だらけ。自然の中の子育ては日常にあります。自然だけではなく、農業、動物、そして大人との関わりを持つる場所や機会も各所に散りばめられています。人と人との距離が近い町だから、地域の方々が我が子のように子どもたちを見つめ、見守っています。



子育て支援センターひまわり

あたごこども園に付属している子育て支援センター。専門知識を持つ子育て支援員が配置され、子どもを遊ばせながら子育てについての相談にも乗ってくれます。母親は他地域からの移住者であることが多く、母親同士のつながりづくりの場にもなっています。施設内にはこども図書室もあり、たくさんの絵本に触れることができます。季節ごとの行事や、一時預かりなどのサポートも。



学童保育（向町・大堀）

町内にある向町小学校と大堀小学校にほど近い距離にある放課後児童クラブ（学童保育）。保護者の迎えが来るまで、宿題をしたり、遊びながら過ごすことができます。短期間での利用も出来るので、長期休暇やお仕事の都合で利用可能。大堀の学童保育では自然の中での体験を大切にしたプログラムが組まれています。



習い事

田舎は学習の機会が少ないような印象を持たれますが、大手学習塾や、幼児期からの英語教室、ピアノ教室、体操教室、バレエ教室、水泳教室、ボクシングクラブなど多種多様な習い事が体験できます。野球とサッカーのスポーツ少年団では大人が熱心に指導しています。特徴的なのは、なんと言ってもスキー教室で、全国大会に出場する選手も少なくありません。



公園・屋内遊具施設

町内各所には大型遊具を設置した公園があります。特徴的なのは集落の子どもたちのために民間で設置した本城公園。木製遊具やトランポリンが人気で、放課後になると子どもたちで賑わいます。また、こちらも民間が運営する交流施設 une (うね) には、低年齢から遊べる木製のおもちゃや遊具、大型トランポリンが設置され、子ども同士の交流の場にもなっています。une の中庭には自然の中で遊べる木製遊具もあります。

最上町の子育て支援

- 2歳児の保育料段階的無償化
- 家庭保育応援給付金の支給
- 出生祝金の支給（プレゼントと商品券もあります）
- 3歳児以上の保育料が無料
- 医療費が生まれてから高校卒業まで無料
- 出産育児応援交付金支給
- ブックスタート事業にて絵本贈呈
- 最上町看護師育成修学資金
- 教育振興修学資金

移住者インタビュー



本田 聖 さん

新規就農者

山形県河北町出身

30 歳

「アスパラガス栽培の面白さを
日々実感中」

これまでに様々な職業を経験してきた本田さん。なかなか自分に合う仕事にめぐり会えず悩んでいた時に、最上町でアスパラガスの研修を始めた友人の高橋駿弥さんの話を聞き、農業への興味が湧いたと言います。県の農業支援センターに相談し、2022年4月から高橋さんと一緒に町内のアスパラガス農家・二戸孝一さんの元で研修を開始。「思った以上に大変な仕事ですが、自分が手がけたものが消費者に届けられることにやりがいを感じます」と本田さん。アスパラガスは1日に2回収穫できるのですが、その生命力に魅力を感じているとのこと。アスパラガスが伸びると、まるで木のような親茎になるのですが、そういったことも知らなかつたので「知れば知るほど面白みを感じる」と教えてくれました。1年目は研修に打ち込んでいたため、あまり地域の行事には参加できな

かったそうですが、借りている町営住宅のご近所さんが気さくに話しかけてくれるので「地元にいた時と変わらない暮らししができている」そうです。ほとんど知人がいない中に飛び込むことは勇気がいることだと思いますが、困ったらすぐに相談に乗ってくれる役場職員の存在が心強いと話してくれました。

「冬はもちろん雪がすごいですが、想像していたより全然住みやすいです。日常の買い物にも困らないし、公共施設も揃っていますし。自然が身近にあるので今後キャンプも楽しめたらいいですね」と、最上町の暮らしやすさを体感しているといいます。いずれ高橋さんと最上町で農業法人を立ち上げることが目標。「今後はSNSなどを通じてアスパラガスや農業の面白さを発信して盛り上げたいです」

最上町ではたらく

最上町には、この町独自の時間が流れています。満員電車に揺られることもなく、夜遅くまで残業する企業も見当たりません。家族みんなで一緒に「いただきます」と「ごちそうさま」が言える。そんなあたりまえの暮らしがあります。この町だから生まれた仕事といえば畜産業や農業ですが、その食材を活かした加工・飲食業、そして世界から求められる最先端の技術を持つ会社も伸びてきています。森林・自然資源を活用した、循環型社会へ向けた取り組みも生まれ、現代に山積する課題に対してそれぞれの業種の力を発揮する新たな挑戦も始まっています。





就農

山形県や最上町では新規就農者への支援を行っています。最上町の主要作物はアスパラガスとニラ。他にもきのこ、トマト、きゅうり、にんにくなども盛んです。作物や年齢により支援制度はさまざまあるので、まずは自分に合う作物を研修制度などを活用しながら模索するのがおすすめ。本気度が伝われば、応援してくれる農家や仲間にめぐり合うことができますし、遊休農地の紹介ももらえるかもしれません。



起業・リモートワーク

地方移住に伴い、起業される方も増えてきました。また、転職なき移住（リモートワーク）もコロナ禍以降増加傾向にあります。仕事の場所を問わないフリーランサーや、最上町の資源を活かした起業などへの期待も高まっています。町内にある町営のレンタルオフィスや民間が運営するコワーキングスペース une（うね）を拠点にすることも可能です。大自然の中で、自分らしい働き方を見つけてみませんか？



就職

就農や起業はハードルが高いけれど、田舎には住んでみたいという方には、町内の魅力的な企業への就職もおすすめです。製造業、小売業、病院勤務、建築業、土木業など、多種多様な業種の会社が立地しています。何よりも残業が少ないのが魅力。家族の時間を大切にしながら働くことができます。ヨソモノの視点や発想も企業に求められています。

最上町に住む

移住するにあたって最も重要な住まいのこと。正直なところ、近隣町村でも移住者は来てくれてもすぐに案内できる住居がないことが課題となっています。公開されている情報からは収集できない住宅情報もあるので諦めずに「もがさぼ」までご相談ください。



若者定住促進住宅

木質バイオマスエネルギーを活用して各部屋に熱供給（暖房・給湯）を行う町営の賃貸住宅です。年間通じて快適に過ごせるほか、居住者同士が交流できる共有ラウンジもあり、コミュニケーションが生まれる場にもなっています。

※人気の物件につき、空きがない場合もあります

※住居専用面積 59.84 m²



空き家バンク

いわゆる古民家のような古い住宅は少ないのでですが、全国各地で課題となっている空き家は最上町にも点在しています。雪に強い設計になっている家も多く、骨格がしっかりしている場合があり、リノベーションにはうってつけ。空き家バンクに掲載されていない空き家も多数存在するので、人づてに紹介してもらうのもおすすめです。現在の空き家情報や利用方法は町のHPにてご確認ください。

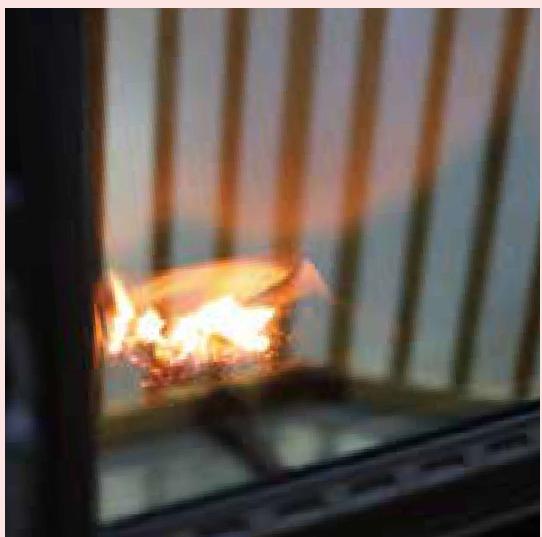


特定住宅

設備も整っていて補修などの心配のいらない特定住宅が、移住したばかりの時期にはおすすめです。町内各集落に点在しているので、仕事の面や周辺環境などを考慮して選ぶことができます。住宅の空き情報、入居の条件などについては町の HP をご確認ください。

※満室の場合があります

※所得制限があります



新築

自然豊かな最上町。ぜひお気に入りの場所に自分らしい家を建ててみてください。最上町には雪に強い住宅建築を得意とする工務店があり、長年蓄積された知識とノウハウで自由設計の住宅を建てることができます。近年は気密性の高い設計が人気で、夏は涼しく冬は暖かい家づくりが可能。最上町の薪やペレットを燃料としたストーブの設置にも助成金があり、この町ならではの住まいづくりが実現できます。

その他支援

- 最上町定住促進住宅取得支援補助金（新築のみ）
- 最上町エコ住宅新增改築支援事業（新築・リフォーム）
- 最上町住宅リフォーム支援事業（県補助事業）
- 浄化槽市町村設置型推進事業（他事業との併用可）
- 最上町克雪化住宅支援事業

※各事業には移住・新婚・子育て世帯などの条件がある場合があります。

※各事業の詳細は町 HP または、建設水道課へお問い合わせください。

最上町で暮らす

山々に囲まれた最上町。居住先にもよりますが、一番近い街へ出るのにも 30 分以上かかります。だからこそ、町内には買い物できる施設が充実しており日常の買い物には困りません。何より温泉に毎日入れたり、新鮮な野菜がすぐに手に入るのは嬉しいポイント。



カルデラの町の温泉

歴史のある赤倉温泉・瀬見温泉のほか、町内には3箇所温泉が湧いています。いずれもリーズナブルな価格帯で、毎日温泉という町民も少なくありません。赤倉温泉のお湯はあたたまりの湯といわれ、冬でも数時間は湯冷めしません。また、瀬見温泉のふかし湯も特徴的。大正ロマンを感じる歴史的な建物も現存し、昔ながらの温泉情緒を味わうことができます。

もがみの素材たっぷりのグルメ

新鮮な素材が身边にあるので、飲食店も最上ならではの素材を活かしたメニューを豊富に揃えています。最上のグルメを求めて他地域から時間をかけて訪れてくださるお客様も。農家のお母さんたちが運営する農家レストランも人気です。各旅館が出す御膳にも最上の食材が豊富に使用されています。



病院や介護施設も充実

最上町の中心部にはウェルネスタウンという健康にまつわる施設を集めた場所があります。内科をはじめ、外科、整形外科、眼科、婦人科の先生が毎週山形大学病院から派遣されています。健診なども当施設で行われ、さらには安価に利用できるスポーツジムがあり専属のトレーナーが個別にプログラムを組んでくれます。汗を流した後は施設内の温泉でリフレッシュできます。



日常生活を支えるお店

最上町の中心部には昔ながらの商店街があり、新鮮なお肉やお魚を買うことができます。暮らしに必要なものは商店街やスーパー、ドラッグストアで揃うほか、農業に欠かせない資材も地元ならではのホームセンターで購入することができます。採れたて新鮮なお野菜は各地域にある直売所で購入可能。朝どりのアスパラガスは今までの常識を覆す美味しさです。



豪雪地だけど除雪レベルが高い！

雪国に移住するにあたり、最も心配なのが雪の問題ですが、これまで培ってきた除雪技術で、他地域からも賞賛の声が上がるほど最上町の道は走りやすいと言われています。家の敷地の除雪も、良い方向に捉えれば全身運動になるので冬場の運動不足解消になります。晴れた日の雪景色は息を呑む美しさです。

最上町・山形県の移住支援

最上町では移住定住サポートを民間に委託し、より柔軟な移住支援を開始しました。移住を希望されている方が求めている暮らしに近づけるように、移住前から移住後まで寄り添います。山形県としても移住支援を積極的に行っているので、様々な補助金を組み合わせて移住にかかる様々な負担を軽くするのがおすすめです。



もがさぼ（移住相談窓口）

最上町移住定住促進コーディネーター「もがさぼ」は民間の移住経験者が担当しています。移住前や移住後の不安や悩み、住居のことなどを気軽にお相談いただけます。移住者同士・移住者と住民の交流会なども企画し、移住しやすい環境を整えています。もがさぼに相談したい方は、まずは定住促進センターまでお問い合わせください。

現在工事中

お試し移住体験住宅整備中

2023年度に移住体験住宅を整備する予定です。移住前のお試し移住の際にご利用可能です。まずは最上町の普通の暮らしをじっくり体験してみてください。滞在中はもがさぼが町内をご案内させていただくことも可能です。整備前に最上町に住んでみたいという方には長期滞在可能な温泉宿泊施設などをご案内いたします。

移住体験イベント

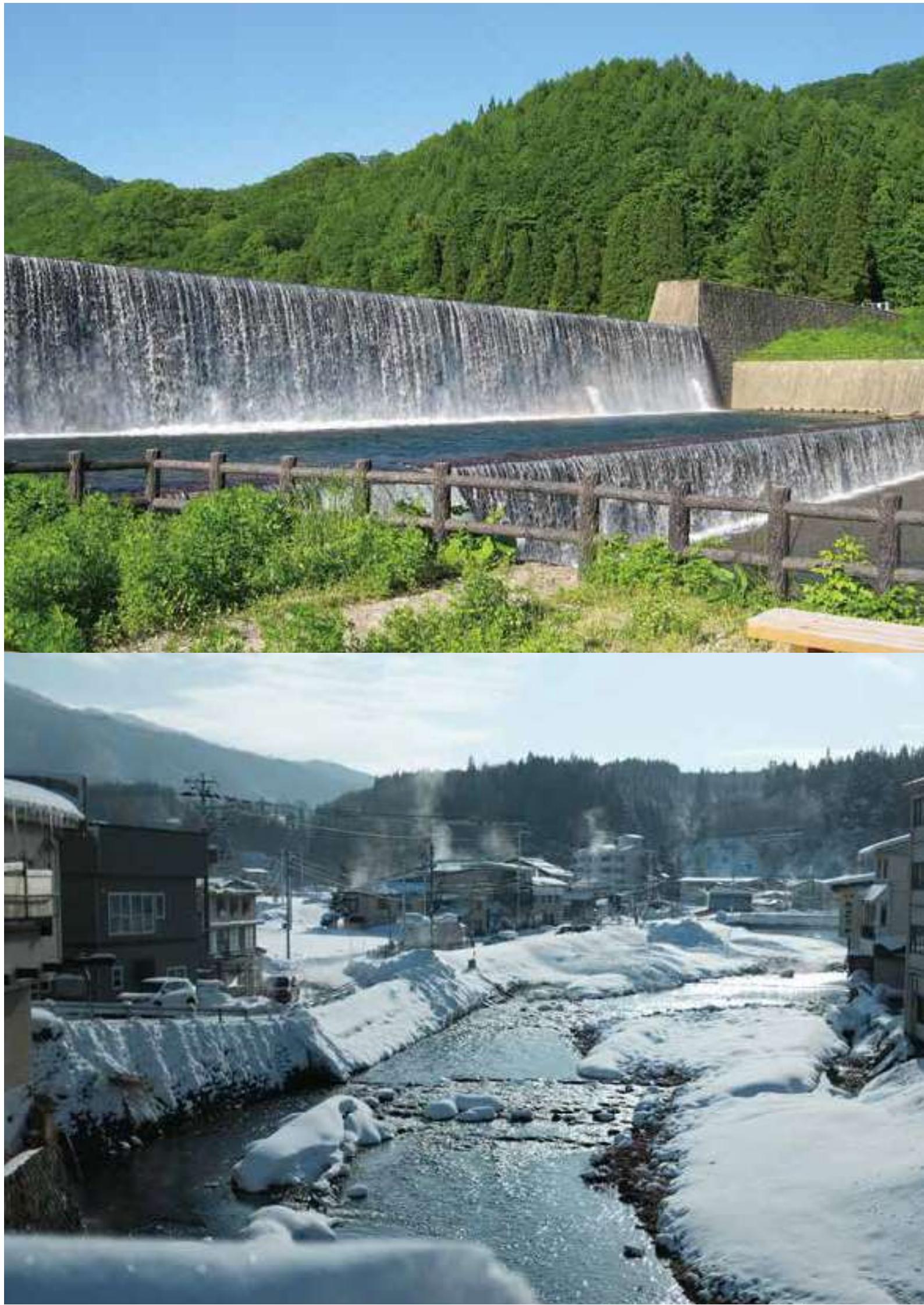


最上町ならではの暮らしを体験できる移住体験イベントを年に 2 回開催する予定です。冬はテントサウナ、PP バンドを使った収穫かごづくり、郷土料理体験を行いました。その季節ならではのイベントを企画していきますので、ぜひお試し移住体験住宅と合わせてご利用ください。イベント情報は町の HP や SNS などで発信していきます。

山形県の移住支援

山形県では主に東京 23 区からの移住世帯に対し、18 歳未満の子どもも 1 人につき最大 100 万円の移住支援金を支給しています。その他、月 1 万円の家賃補助、米・味噌・醤油を 1 年分ご提供、東京圏から指定の県内中小企業に就職した方に最大 100 万円支給など、様々な支援があります。支援を受けるためには県、または市町村の公的相談窓口を利用する必要がありますので、移住前に必ずご相談ください。





本当に住みやすいと感じる場所は、人それぞれ。
日本の片隅にある、この小さな町を
移住や暮らし方を模索する中で見つけてもらえたなら嬉しいことです。
住むという選択ではなくても、
なんとなく懐かしい、安心できるような場所でありたい。
いつでも帰ってきたくなる、そんな町を私たちは目指しています。
まずは、この町の透き通った空気を吸って、
澄んだ水を飲みにきてみてください。
新しい出会いが生まれることを楽しみにしています。

山形県最上町定住促進センター（まちづくり推進室内）

〒999-6101

山形県最上郡最上町大字向町 644

☎0233-43-2261

(受付時間 平日 8:30~17:00)

machizukuri@town.mogami.lg.jp

最上町 HP



